

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 1

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		中山間地域等直接支払制度					
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		農務係	
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道			氏名	大和良成
事業の概要	生産条件の不利な地域の一団の農用地に対し、耕作放棄地の発生を未然に防止し、多面的機能の確保を図る観点から農業生産条件の不利を補正するために交付金を交付し、集落単位で対象農用地等の維持管理に努める。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 21 年度) 事業費 国・道支出金 141,674 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 48,914 千円 事業費計 190,588 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ( )			
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	1 農業の振興					
	単 位 施 策	5 農業による地域の活性化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等	北海道中山間地域等直接支払交付金実施要領					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	70,339 千円	70,837 千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	23,447 千円	24,457 千円	千円	千円	千円	
	合 計	93786 千円	95294 千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	事業参加農家の対象農用地	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	H21年度までの事業であることから、その後の農地管理の低下が懸念される。	集落協定の締結			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	耕作放棄地の発生防止や農地を含めた周辺環境の整備を図る。	① 集落協定の締結	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	8 集落	
			実績値	8 集落	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	酪農環境の整備 就労意欲の向上 農業生産の向上	②	達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
協定締結集落への交付金の交付	対象農用地の面積を基準とした補助(事業費の50%国・25%道・25%町)				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの	国の施策に基づき事業参加をしたことから、事業最終年度までの継続は必要であり、事業実施の効果も得られている。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	制度の目的どおり各集落が事業を実施しており、新たな耕作放棄地の発生もない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	中間年や年度別の評価を実施しており、評価内容からも効率的な成果が得られている。 事業実施要綱等に基づき実施しており事業費等の抑制はできない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

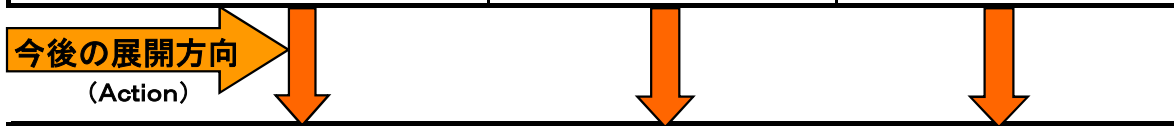
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	制度に基づき実施していることから、受益者負担はないが、基幹産業である酪農畜産業の振興のために実施しており、地域経済の発展にもつながるものである。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
計画どおり事業が実施され、酪農環境の継続的な整備が図られている。		



継続／現状維持		
事業参加者の酪農経営における意欲の向上が図られ、成果が見られることから継続する必要がある。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8-2

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	資源リサイクル畜産環境整備事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		農務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	大和良成
事業の概要	地域住民の環境問題に対する意識がたかまっており、特に畜産経営に起因する水質汚濁や悪臭に対して住民から厳しく懸念されている状況にあることから、家畜排せつ物の管理、適正化に関する法律に基づき排せつ物処理施設の整備を図ると共に、自然循環機能の促進を図るための飼料基盤整備が必要なことから草地造成等の基盤整備を実施する。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度～ 21 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 44,916 千円 一般財源 千円 事業費計 44,916 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	4 安全・安心な農業の振興				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等	北海道畜産環境整備実施要領				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	34,150 千円	40,849 千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	34150 千円	40849 千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	事業参加農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	事業終了後の環境整備の推進	酪農環境の整備			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	家畜排せつ物処理施設の整備 資源循環型農業の実施	① 施設整備、基盤整備 基盤整備270.51ha	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	270.51 ha	
			実績値	270.51 ha	
達成度	100.0 %				
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	酪農環境の改善や草地整備の推進	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
基盤整備の実施	草地整備ほか 270.51ha				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町費負担なし。 酪農環境整備が必要なことから本事業により実施する。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	計画的に基盤整備が実施されている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的 課題あり	判断の理由	事業実施主体が農業開発公社であり、事業の発注等も公社で行っていることから概ねコストに見合った効果は得られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	事業費の全額が受益者負担である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
受益者の要望があることから、計画通り事業を進めるべきである。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
平成21年度が事業の最終年であり、更に国との協議が図られていることから、継続して実施するべきである。		

\* 展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更     終了     休止     廃止

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 3

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		利子補給補助事業				
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		農務係
	管理職	職名	課長		作成者	係長
		氏名	石井弘道			氏名
事業の概要	農業者の経営安定化を目指すために貸付られた資金に対する利子補給を行うことにより、償還の負担が軽減され、ゆとりある酪農経営の支援が図られる。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 10,744 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 10,583 千円 事業費計 21,327 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	2 担い手(人・組織)の強化				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等	北海道農業関係制度資金に係る利子補給等の事務取扱要領				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	2,059 千円	2,191 千円	2,178 千円	2,128 千円	2,039 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額(一般財源)	2,014 千円	2,152 千円	2,146 千円	2,101 千円	2,019 千円
	合計	4073 千円	4343 千円	4324 千円	4229 千円	4058 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	資金借入農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	無利子化制度の延長	利子補給額				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	資金を活用しての経営内容の改善等による経営の安定化	① 利子補給額	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
						目標値 4,073 千円
						実績値 4,073 千円
						達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	農業生産の拡大等により一定水準の農家収入を確保する	②	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目標値
						実績値
						達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
資金借入による利子補給	無利子化制度の対象資金(農業経営基盤強化資金・大家畜経営活性化資金)を借入している農業経営者への利子補給(北海道と町で助成)					

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの	国の制度に基づく事業であり、今後の酪農経営の安定化を図るためには必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	経営安定化のために借入した資金の償還利子を補助することによって、農家の負担の軽減が図られ、そのことが酪農経営の安定に向けた意欲の向上につながる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	道と町との負担割合が定められていることから、事業費抑制等のコストの削減ができない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	法律で定められた資金のみに対しての利子補給であり、その資金を借入した人のすべてが対象となる。 大家畜経営活性化資金～受益者負担あり 農業経営基盤強化資金～H19年度以降受益者負担なし。 H19年度以前借入は負担あり。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
酪農業の現状は、飼料等の価格高騰により経営を圧迫しており、本事業を実施することで経営安定化の推進が図られている。		



継続／現状維持		
酪農業の現状からも本事業を継続することは経営安定化を図るうえで必要である。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 4

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		農畜産物等を活用した食品の開発調査推進事業				
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		農務係
	管理職	職名	課長		作成者	係長
		氏名	石井弘道			氏名
事業の概要	農業生産物(生乳等)の二次加工製品を開発することにより、地産地消の推進、地場製品のブランド化を図り、本町の酪農業の発展に努める。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 450 千円 事業費計 450 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ( )	
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 A
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	5 農業による地域の活性化				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	45 千円	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円
	合計	45 千円	100 千円	100 千円	100 千円	100 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農業生産物(生乳等)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	加工品種が限定されており、新たな製品を開発するための情報や専門的知識不足	加工品の確定				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	新たな生乳等の加工食品の開発	①	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目標値
						実績値
						達成度 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	新たな加工製品の開発により農産物のブランド化を図り、原料の供給による酪農業の振興	②	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目標値
						実績値
						達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
関係機関等からの情報提供	オホーツク圏地域食品加工技術センターなど関係機関との打ち合せ(相談、情報提供)を行い開発に係る情報等の収集に努めた。					

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	農産物の付加価値を高めるためには、本事業は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	現状で流通していない新たな加工製品の開発にはある程度の期間が必要であり、初期調査段階での情報収集等は達成できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	事業費ベースでは効率的に推移している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

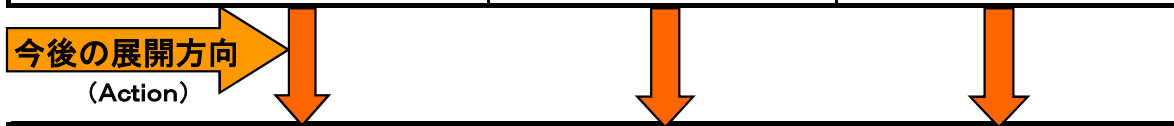
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	調査段階であることから公平性を保っている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
初期段階での情報収集や検討事項はほぼ計画どおり進んでいる。		



継続／現状維持		
今後、さらなる情報の収集や関係機関等との協議等が必要である。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更     終了     休止     廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--



平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 5

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	酪農ヘルパー制度強化推進事業					
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名	農務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	大和良成
事業の概要	緊急時における労働力の確保や従事者の農休日の確保を図り、環境の改善を図るには、酪農ヘルパー制度は必要であり、体制整備を充実させることにより、より多くの農家が利用でき、農業後継者の育成・確保に適した環境の整備が図られる。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 10,000 千円 事業費計 10,000 千円	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託		<input type="checkbox"/> その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	2 担い手(人・組織)の強化				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円
	合計	2000 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	酪農ヘルパー制度及び利用農家	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	優秀な人材の確保	ヘルパー数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	酪農ヘルパーの増員	① ヘルパー数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
			目標値及び実績値			目標値 4人
						実績値 4人
						達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	制度利用農家が希望するときに利用できる体制	②	目標年度			
			目標値			
			実績値			
			達成度 %			
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
人材の増員	新たなヘルパー1名を雇用、4人体制として制度の充実を図った。					

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	体制の維持や農家負担の軽減を図る意味では必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	ヘルパー1名を増員し、正規職員を4人体制とした。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	効率的な結果が得られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

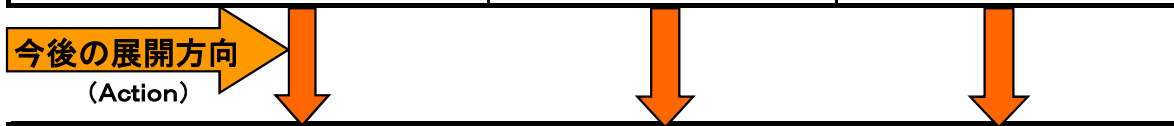
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	利用組合の設立により負担金を徴収しての運営であり、その運営費の一部を負担することで、酪農業全体の環境改善につながる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり1名増員できた。		



継続／現状維持		
継続して現体制を維持する。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  終了  休止  廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 6

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		農業経営改善促進事業				
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名		農務係
	管理職	職名	課長		作成者	係長
		氏名	石井弘道			氏名
事業の概要	効率的で安定的な農業経営を目指す農業者が作成する農業経営改善計画を認定し、多くの認定農業者を育成することで、個々の農家の経営改善が図られ、そのことが酪農業全体の経営の活性化へとつながる。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 0 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 0 千円 事業費計 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	2 担い手(人・組織)の強化				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等	雄武町農業経営基盤強化促進基本構想				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額(一般財源)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農業経営者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	認定農業者制度に対する意識の低迷	認定農業者数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	すべての農業経営者の認定	① 農業者の農業経営改善計画の新規認定	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
			目標値及び実績値			目標値 3 件
						実績値 16 件
						達成度 533.3 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	効率的で安定的な農業経営	②	目標年度			目標年度
			目標値			目標値
			実績値			実績値
			達成度			達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
認定農業者の拡大	農業経営改善計画の認定					

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	本町の酪農業の振興を推進するためには、計画的な経営改善が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	国の経済対策事業の取り組みにより計画以上の認定となった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	認定事務の簡素化(文書による認定団体との協議)により効率化が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

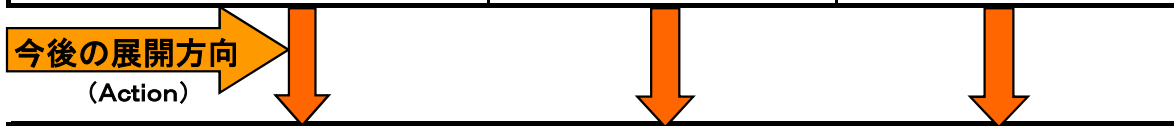
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	意欲のある農業経営者に対して、役務に対する応分の対価の観点から公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今後も再認定を含め計画どおり事業の推進を図る。		



継続／現状維持		
今後も再認定を含め計画どおり事業の推進を図る。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 7

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	新規就農者支援事業					
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名	農務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	大和良成
事業の概要	農業後継者不足による離農等の跡地等に新規就農者を誘致し支援等を行うことで、酪農業のさらなる振興を図る。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託		<input type="checkbox"/> その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)	<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業		優先度	C	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	1 農業の振興				
	単位施策	2 担い手(人・組織)の強化				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等	雄武町新規就農者誘致に関する特別措置条例				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	新規就農者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	新規就農者の確保	新規就農者の誘致			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	新規就農者の誘致	①	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度		%
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	担い手の確保や耕作放棄地の解消	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度		%
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
就農説明会の参加	担い手センター等で開催する就農説明会等へ参加し、就農者の確保を図る。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	後継者不足等による離農跡地に新規就農者を就農させることにより、農地の荒廃や耕作放棄地を防止することができるとともに、酪農業の活性化が図られる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	酪農実習等についての問い合わせがあったが、新規就農についての情報はなく、今後も就農相談会等での情報の収集に努める必要がある。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	資金等の助成の発生がなかった。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	実績はなかったが、該当する新規就農者の応分の負担があり、条例に基づく助成であることから公平である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
新規就農実績がないことから、関係団体、機関等との共同での取り組みを実施する。		



継続／現状維持		
新規就農実績がないことから、今後も継続した取り組みを実施していく必要がある。		

\*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更     終了     休止     廃止

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 8 - 8

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		畜産指導者育成事業					
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名	農務係		
	管理職	職名	課長		職名	係長	
		氏名	石井弘道		作成者	氏名	大和良成
事業の概要	地域農業の生産技術の向上や経営の安定化等を図るため関係機関(農協、普及センター、役場等)が連携し、農業各担当者の専門的知識を高めるための勉強会等を開催して指導力の向上を図る。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円		
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	1 農業の振興					
	単位施策	3 生産技術の向上					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額(一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円	
	合計	千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農業関係機関担当者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
【抱える課題やニーズは】	異動等により専門的技術、知識の習得が困難である。	知識の向上や課題等の検討のための会議等の開催
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	各関係機関の担当者が現状の課題に対する情報の把握とそれらに対する対応策の検討を共同で図る。	指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値 ① 畜産指導者会議の開催 目標年度 20年度 目標値 6回 実績値 5回 達成度 83.3%
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	個々の農家に対する経営改善や飼養管理等の指導を行い、農業経営の安定化を図る。	② 目標年度 目標値 実績値 達成度 %
<b>内 容(どのような手段で何を行ったか)</b>		
畜産指導者会議の開催	農協、役場、普及センターの担当者が集まり、酪農に関する課題等について話し合いを行い、農家に対する経営や管理の指導を実施し、経営の向上を図った。	

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	専門的な指導者の育成は重要であり、課題のある農業経営者等への指導を行うことにより経営の改善が図られる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	関係機関による担当者での会議等を開催し、情報の共有化や農家指導についての検討を行った。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	次回会議開催日等を約1ヶ月前に設定し、効率的な運営を図っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

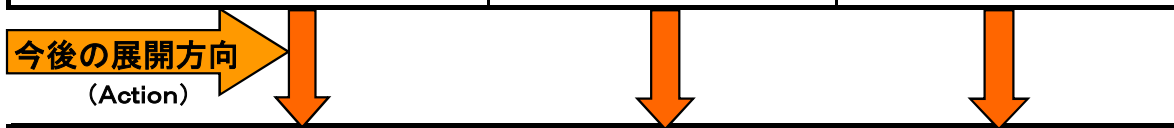
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	事業実施にあたり不公平感はない。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
関係機関と調整を図りながら、計画どおり事業を進めていく。		



継続／現状維持		
現状維持を図りながら、事業内容の改善について検討したい。		

\* 展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更     終了     休止     廃止

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--